



2021(仏暦2564)年 12月号 (第123号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



■住職法話

えんぎ
縁起の教え

■浄土真宗 (新) 仏事のイロハ

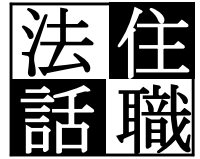
■本願寺の本

どうしてお葬式をするの？

■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2020(令和 2)年	23 回忌	1999(平成11)年
3 回忌	2019(令和 1)年	25 回忌	1997(平成 9)年
7 回忌	2015(平成27)年	27 回忌	1995(平成 7)年
13 回忌	2009(平成21)年	33 回忌	1989(平成 1)年
17 回忌	2005(平成17)年	50 回忌	1972(昭和47)年



縁起の教え

今月の法語

今日である

あること難き

今日である

坊守である私の妻とその母（義母）との話です。今年十月に、娘の小学校運動会がありました。妻は、毎年のもので義母は観に来てくれるものと思ひ電話をしたところ、今年には行かないとの返事でした。感染症対策の影響で時間も短縮されたこともあり、遠方へ足を運ぶことが億劫であったとのことでした。来るの

を楽しみにしていた妻は激怒して、それ以来、義母との連絡を一切絶ってしまい、義母も謝ったようですが今でも冷戦状態が続いています。

私は傍から見ると見えない状況の中、何れ元に戻るかなと樂觀視はしています。このように、親子間柄であってもある一言で関係が悪くなり離れていくものです。

お釈迦さまは「諸行無常、諸法無我」と言われ、「この世のあらゆるものは千変万化しながら常に移り変わり続けていて、不変なものは何一つない。一瞬一瞬に変化しながら、ただその時の縁によって結びついている存在である」

と縁起の教えを明らかにされました。その教えを頂くと、人間は親子といった変わることもない事実というつながりで生きているのではなく、その意味を知ることによって結びついた存在であることに気づかされます。ですから、今、この時も一瞬一瞬変わり続けながら、今を生きているのです。

歌手の小田和正さんの「ラブストーリーは突然に」という歌にもあります。

あの日 あの時

あの場所

君に会えなかつたら

僕らはいつまでも

見知らぬ二人のまま

誰しも「あの時こうしておけば」と思うことばかりでしょう。しかし、過去の事実が変えられなくとも、その意味が変わっていくことはあるはず。だから、今を大切にと言われるのです。

お題の「あること難き」は「有難き」です。再度、お釈迦さまの縁起の教えを頂くと、今日、この時、この場所で、この私という存在があるということは、それほど難しいことという意味で有難いのです。

この一年も、無事に過ごせました。「有難き」と感謝するばかりでございます。

南無阿弥陀仏



浄土真宗

◎ 仏事のイロハ

二、葬儀を行う

― 悲しみを超えて ―

「葬儀のお飾り」

葬儀の祭壇は浄土を表す

葬祭業者と葬儀の打ち合わせをする時に、祭壇（仏教では莊嚴壇といいますが）の形や規模の話が出ると思いますが。その際、ひとつと葬祭業者に告げていただきたいことがあります。それは、祭壇（莊嚴壇）の中央最上部には南無阿弥陀仏の名号（本尊となります）を奉懸し、また故人の遺影等で名号が隠れないように配慮していただきたいと思います。

祭壇（莊嚴壇）は、本尊を奉懸することによって、実はお仏壇となるのです。浄土真宗の葬儀は、阿弥陀さまの大悲を仰ぎ、救いのはたらきにゆだねていく儀式です。したがって、葬儀のお飾りも阿弥陀さまが中心であり、その一つひとつは浄土の情景を表しているのです。

具体的に言いますと、祭壇（莊嚴壇）の種類はさまざまですが、中央上部に平等院鳳凰堂を思わせる木



製のミニ建物が設えられる場合があります。そこは、亡き人の遺影を飾るところではなく、鳳凰堂がそのものであるように、阿弥陀さまのお住まいである浄土の宮殿、あるいは説法されている講堂を表しています。したがって、阿弥陀さまのはたらきを表す名号を奉懸します。

また、故人の遺影や法名の周辺にはたくさんの花が飾られます。これらの花は浄土に咲く花です。これらの活き活きとした花はいのちの輝きを表しているのです。亡き人は、花に象徴される多くの輝きのちに包まれて浄土に救われていかれるのです。莊嚴壇の花々は、亡き人に「寂しくないよ。いつも一緒だよ」と温かく語りかけてくれていますし、別れを悲しむ

私たち遺族に対しても「安心してください。ほらっ、こんなに多くのいのちに護られていますから…」と、励ましてくれているようですよ。

そのほかの灯明やお香や供物も、阿弥陀さまのお心のこもった浄土の情景の一つひとつなのです。

ポイント

▼葬儀のお飾りも阿弥陀さまが中心

▼莊嚴壇は浄土の情景を表している

「浄土真宗 ◎ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



～本願寺の本～

「どうしてお葬式をするの？ ねえ、お坊さん教えてよ」

岡崎秀麿/富島信海 著/本願寺出版社 刊 1,760円(税込)

お葬式で好きなお経を読んでもらえるのか、お布施はいつ渡すのか、法事は何回忌までやればいいのか…。「葬儀」へのギモン、「法事」へのギモン、さまざまなギモンにQ&A形式でわかりやすく答えます。

附録として、浄土真宗本願寺派における葬儀の歴史や意義について簡潔に記載した「これでわかる！浄土真宗の葬送儀礼」を収録。

[本願寺出版社ホームページより]



親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要

立教開宗800年

Joint Celebration

850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

法要期日

2023(令和5)年

第1期 3月29日(水)～4月3日(月)
第2期 4月10日(月)～4月15日(土)

第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
第4期 5月6日(土)～5月11日(木)
第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

毎月16日はShinran's Day

親鸞聖人のご命日です ご参拝ください

浄土真宗本願寺派
龍谷山 本願寺

編集後記

雪の季節ですが、寒波が居座って、雪かきに追われて大変な地域もあるようです。◆今年もコロナに始まり、コロナに終わったような一年でした。なかなか終わりが見えない状況が続きますが、来年こそはと願いたいものです。お互い気をつけましょう。◆今年一年の編集を終えました。毎月、楽しみにされ、お読み頂いている方のお話しを伺うと、さらに編集意欲がわいてきます。内容も乏しく、慌ただしく発行するような月もありますが、続けることを大切にしています。来年もよろしくお願ひします。

